

# インゲンマメ新品種「スノークropp・さやかざり」の品種特性と栽培のポイント

雪印種苗(株)千葉研究農場 近江 公

## 1 はじめに

若莢を食する莢インゲンは業務用、家庭用を含め食生活の多用化に伴い、肉料理のつけあわせ、ゴマあえなどいろいろな料理に利用され、その需要も着実に増えています。また、作物的にも極端な寒暑に当てなければ比較的栽培管理が容易で、播種から収穫まで約60日程度と短く、各地のいろいろな作型で栽培されます。

## 2 周年栽培されているインゲンマメ

インゲンマメは既に周年栽培が行われており、一年中どこかの地域から出荷されています(図1)。東京周辺の市場(以下、関東市場)と中京、京阪神を中心とする市場(以下、関西市場)では、産地が多少異なりますが、一地域から限定されて入荷するのではなく、一般的に春作は一般平地地、夏～秋作が北海道・東北・高冷地、そして冬作が西南暖地での栽培となります。このことは、インゲンマメが栽培環境の中で温度(気温)が最も重要な要因であることを示しています。

インゲンマメの生育適温は15～25℃で、10℃で

生育不良となり、5℃以下では生育が停止します。また、霜に弱く、軽い霜でも霜害を受けて枯死してしまいます。

花芽の分化についても10℃以下では落蕾し、また、8℃以下では開花するのも困難となります。反対に長時間30℃以上の温度が続くと花芽の生育は停止し、花粉の形成が阻害され、奇形莢の割合が増大します。

## 3 関東と関西の嗜好性

流通産業の発達に伴い、北海道から沖縄まで全国津々浦々の青果物が全国各地の市場に入るようになりました。そのため、規格もより全国的に統一されてきており、昔のような地域間差、地元在来野菜が減りました。しかし、莢インゲンは昔から現在に至るまで、関東市場と関西市場で全く嗜好性が異なる数少ない野菜の一つです。関東では、いわゆる、どじょうインゲンと呼ばれる莢にくびれのある平莢品種が好まれますが、関西ではくびれるのは中の種子が太って堅くなっているとの理由からきらわれ、莢の表面がなめらかな丸莢インゲンを好みます。

## 4 市場性を考えた品種選定

関東と関西で市場の好みが違うわけですから、当然扱われている品種も異なります。関東市場は古くから千

地域	作型	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	関東市場	関西市場
北海道・東北・高冷地	春・夏まき露地栽培					○	○	○	■	■	■	■	■	福島、群馬、秋田	長野、北海道
	ハウス半促成栽培	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
一般平地地	春まき露地栽培				○	○	○	○	○	○	○	○	○	千葉、茨城	和歌山、奈良、岐阜
	夏まき抑制栽培											○	○		
西南暖地	ハウス促成・半促成栽培					○	○	○	○	○	○	○	○	沖縄、鹿児島、長崎、高知	鹿児島、熊本、沖縄、福岡、愛媛
	春まき露地栽培				○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	夏・秋まき抑制栽培												○		

○—○ 播種 ■ 収穫

図1 インゲンマメの代表的作型と主要産地

葉、福島、茨城産のつるありインゲン（ケンタッキーワンダー）が大部分を占めており、これらの入荷が途切れる晩秋～早春にかけては、西南暖地からつるなしインゲン（サーベルなど）が入ってきます。

一方、関西市場は秋～春にかけて鹿児島、熊本、沖縄などからつるなしの丸莢インゲン（スノークロップ、アーロン、キーストンすじなし江戸川など）が入り、高温時期の7～9月には長野をはじめ、東北あるいは一部北海道からエアーカーゴで、丸莢インゲン（スノークロップなど）が入荷されています。

## 5 新品種紹介

弊社では、既に「スノークロップ・ネリナ（旧称スノークロップ112）」（昭和59年発表）、「スノークロップ・リンダ」（同昭和63年）を発表し、主に丸莢インゲンの産地を中心に好評をいただいております。

このたび、新たに、スノークロップ・ネリナ、リンダより早生で、莢の品質良好な丸莢多収品種「スノークロップ・さやかざり（旧称SB2002、莢華）」の育成を完了し、品種登録が内定（4月現在）しましたので紹介します。

## 6 スノークロップ・さやかざりの品種特性

### 1) 早晚性

さやかざりは早生品種に属し、ネリナより開花で3日程度、また、収穫始では5～6日程度早くなります。特に収穫の最盛期はネリナより1週間程度早まります。

### 2) 草姿

草丈は作型、地域によって多少異なりますが、露地では50～60cm程度、ハウスでは60～70cm程度になります。葉は小葉で先がやや尖り、ネリナの葉形に似ています。草勢はハウス栽培においては順調に伸びますが、露地栽培ではやや弱まる傾向があり、水分管理などが重要になります（詳細については後述）。

開花時は花房が葉の上側に飛び出る形となり、また、早生品種特有の一斉開花の傾向が強いので、



スノークロップ・さやかざりの開花最盛期。白い花が目立つのが特徴。



スノークロップ・さやかざり（系統SB2002）は濃緑莢で曲がり少ない。

白い花が大変良く目立ちます。

### 3) 莢の特性

莢はくびれないすじなしの丸莢です。莢の品質で要望されるのは、濃緑で曲がりがなく、また、細味で、太く堅くならず、肌のきれいな点です。ネリナはこれらの品質を兼ね備えた品種として、市場において高い評価を得ておりますが、さやかざりについてもネリナ同様、莢の品質は良好で、濃緑で曲がり少なく、また、莢肌もきれいで細く、見た目に柔らかさと新鮮さをかもし出しています。

ネリナよりは長さの割にやや太くなり、ネリナで指摘されるS規格（莢長9～11cm）穫りでの収量減についても、ネリナよりはS規格での一莢重があり、収量的にも期待できます。莢の長さは、やや穫り遅れても大部分は13cm前後で止まり、M規格（莢長11～13cm）中心の出荷に適した品種です。

### 4) 収量性

表1のとおり、さやかざりは各作型においてリ

ンダ同様、同じ早生系品種 K (M 社) と比べて上物莢数が多く、多収性を示しています。莢の曲がりが少ないため上物率が高く、下物の量は他品種と比較しても極めて少なくなっています。

また、リンダ同様、収穫最盛期の収量が極めて多く、ネリナのような長期間にわたって平均的に穫れるのではなく、一斉に穫れてくるタイプの品種です (図 2)。

### 5) その他の特性

前述のとおり、花の位置が葉の上側にあるため、収穫時においても葉をかきわけて内側から収穫するといった作業の手間が省け、比較的容易に収穫することができます。

## 7 さやかざりの栽培上の注意点

### 1) 樹勢の確保

インゲンマメの場合、収量をあげるために最も大切なことは樹勢を強く保つことです。短期穫り、長期穫りを問わず、樹勢が弱まると花の着きが悪くなり、また、開花しても落花したり、あるいは曲がり、変形莢の割合が増大します。

さやかざりについても樹勢を弱めると収量は上がらず、また、上物率も低下しますので、樹勢確保のため、以下の点に注意して下さい。

表 1 各作型における収量及び特性調査

品 種 名	開花始 月・日	収穫始 月・日	草丈 cm	莢色		莢長 cm	莢幅 cm	上物莢 本/5株	上物莢 kg/a	平均 一莢重 g	上物率 %
				9→1	9→1						
〈ハウス半促成栽培〉(3月10日播種)											
スノークロップ・さやかざり	4.27	5.10	75.0	7.2	6.5	13.0	0.8	313	159.3	4.1	85.1
スノークロップ・リンダ	4.29	5.13	77.0	7.1	5.7	12.8	0.9	314	151.2	3.9	82.5
スノークロップ・ネリナ	4.30	5.14	75.8	7.1	6.4	13.1	0.7	267	117.7	3.6	83.3
K品種 (M社)	4.26	5.9	78.3	5.2	5.9	14.1	0.8	226	145.2	5.2	81.4
〈春まき露地栽培〉(5月6日播種)											
スノークロップ・さやかざり	6.16	6.28	45.0	7.5	5.9	13.6	0.8	196	104.7	4.3	69.8
スノークロップ・リンダ	6.17	6.30	46.4	7.0	5.6	13.3	0.8	185	105.4	4.6	67.0
スノークロップ・ネリナ	6.19	7.1	49.9	6.9	6.1	13.2	0.7	205	104.4	4.1	75.8
K品種 (M社)	6.15	6.27	44.9	5.2	5.8	13.7	0.8	159	119.5	6.1	73.4
〈夏まき抑制栽培〉(8月29日播種)											
スノークロップ・さやかざり	9.29	10.15	—	7.6	5.7	12.2	0.8	119	57.7	3.9	56.7
スノークロップ・リンダ	10.1	10.19	—	7.0	5.5	11.8	0.7	103	47.2	3.7	53.6
スノークロップ・ネリナ	10.1	10.24	—	6.7	5.7	11.7	0.7	98	41.9	3.5	54.3
K品種 (M社)	9.29	10.14	—	5.4	5.2	12.2	0.8	79	42.8	4.4	47.4

評点基準・莢色：9(極濃緑色)→1(黄緑色)、曲がり：9(極少)→1(極多)。

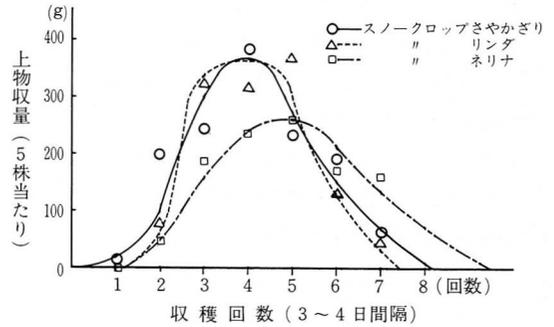


図 2 ハラス半促成栽培における収量パターン (平成元年、雪印種苗㈱ 千葉研究農場)

### ①ハウス栽培での水管理

さやかざりは極端な乾湿をきらいいます。排水の悪い畑では、ベッドを 15 cm 以上の高うねとして下さい。また、かん水施設などの準備も必要となります。ベッドづくりの段階で、かん水チューブをベッドの中央に設置しておく、その後のかん水作業は簡単に行うことができます。

ベッドづくり及びマルチ張りの時に十分土壌水分を確保し、その後、開花までは比較的乾燥気味に管理します。開花期以後、収穫期間中は樹勢を保つため定期的にかん水を行なって下さい。

### ②露地栽培での土づくり (肥培管理) と地温の確保、調整など

(平成元年 雪印種苗㈱ 千葉研究農場)

露地栽培での樹勢は初期生育時に決定するといっても過言ではありません。土づくり、特に有機質肥料を中心に地力確保に努め、あまり化成肥料に頼るような畑では樹勢の確保は期待できません。また、初期生育時に強風などによって、

地上部にストレスがかかると生育が一時中断し、その後の樹勢に影響を与えますので、風の強い地域では防風ネットなどを張って、できるだけ地上部が痛まないようにして下さい。

先に述べたとおり、インゲンマメの生育適温は15～25℃です。春まきでは初期の低温、夏まき抑制栽培では反対に高温の影響が心配されます。マルチ、べたがけ資材などで、順調な初期生育を心がけて下さい。

## 2) 蔓化（つる性化）防止対策

本来、つるなし品種であらざるものが、環境条件によっては蔓化、いわゆる、つる性化することがあります。このつるが伸びるという現象は節間伸長による徒長であることが知られていますが、その原因と思われる点は以下のとおりと考えられています。

### ①夜間の高温

晴天時の日中の高温は問題になりませんが、夜間または弱光下での高温は節間伸長を誘発します。暖地での夏季の栽培あるいは加温をしてのハウス栽培などが、その条件になると考えられます。

### ②弱日照下での栽培

日当たりの悪い場所で栽培したり、あるいは曇天が続いたり、また、透過性の悪い古くなったビニールハウスなどで栽培した場合など、日照量は不足し節間伸長がみられます。

### ③土壌水分の過剰

過度な土壌水分、また、湿気も節間伸長に影響を及ぼします。

### ④窒素肥料の過剰施用

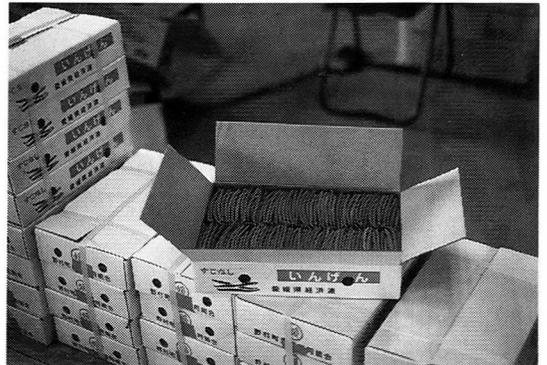
窒素肥料のやり過ぎによって、いわゆる、つるばけ状態になりますが、通常、窒素過多によるのみ徒長するとは考えにくく、他の徒長要因を助長するものと思われます。

### ⑤過度の密植

他条件が同一でも、栽植密度によって節間伸長の程度が違ってきます。

これらの原因が単独ではなく、複合的に作用して節間伸長が誘発されていると考えられます。したがって、蔓化を未然に防ぐためには、これらの環境条件に十分注意し管理する必要があります。

品種によって、これらの条件に対する反応は違っ



最も単価の高いS規格での荷姿。

ており、さやかざりはネリナ同様、やや敏感なほうで、適合する条件の中では節間伸長がみられません。ただし、節間が伸びたとしても節数が大きく変わるといことはなく、また、伸長は主茎のみで、分枝の伸長はほとんどみられません。収量的には主茎より分枝に多く着莢するので、節間伸長に伴う減収は考えなくて良いと思われます。また、熟期についても、節間伸長によって遅れることはありません。節間伸長は開花期までに終わり、その後の収穫期以降に伸びるということはありません。したがって、つるありインゲンのようなつるの誘引の必要はなく、つるなしインゲンとしての栽培管理で十分収穫していくことが可能です。

## 8 さいごに

さやかざりはスノークロップシリーズの一つとして、現在のネリナ同様、市場評価が十分期待できる品質を兼ね備えた品種です。特にS、M規格穫りにおいても収量性が高く、単価と合わせて収益性の高い品種であり、その特徴を十分活かせるよう樹勢の確保、適期収穫、規格、選別の徹底を図っていただければ幸いです。

（なお、本品種は種子量がまだ少なく、翌春より本格販売となりますので、ご了承下さい）

